

中国社会文化学会 2024 年度 7 月例会のお知らせ

日時：2024 年 7 月 22 日（月） 16 時～18 時 30 分

場所：東京大学本郷キャンパス赤門総合研究棟 7 階 738 室
（対面及びオンラインによるハイブリット形式）

講演者：馬場公彦（北京外国語大学日語学院・北京日本学研究センター）

題目：日中戦争開戦期における対中認識の形成と変化
——1936-38 年発行の大衆雑誌掲載関連記事の内容分析を通して

司会：鈴木将久（東京大学）

主催：中国社会文化学会

共催：科研（C）21K00322

参加費：無料

報告概要：

盧溝橋事件の勃発後 1 年余りのうちに、南京・徐州・武漢・広州が陥落し、戦火は華北から華中・華南へと拡大し、日中間の紛争は局地戦から全面戦争へ、二国間戦争から国際戦へ、軍事紛争から総力戦へと様相が変質していった。その日中戦争開戦期において、当時の日本人は戦争をどのようにとらえ、戦争認識は戦況の変化に伴いどう変容したのだろうか。従来の軍事史・外交史・国際関係史の観点からではなく、国民の対中認識の観点から捉え直すことを目指して、当時のマスメディアで報道された日中戦争関連記事を通して、そこに寄稿した知識人及び政官軍当事者の記事内容に反映された認識の究明を試みたい。具体的には開戦前後の 1936-38 年の丸 3 年間に渉る時期に日本・東京で発行されていた 10 種の月刊大衆雑誌に掲載されていた総勢 736 名の寄稿者による総量 1351 本に及ぶ関連記事を検討対象とした。

対面またはオンラインいずれかによる参加をご希望されるかたは 7 月 18 日（木）までに

申込フォーム（ <https://forms.gle/gaQPHnJPiU3fPFdc6> ）から登録ください。

QR コードからもフォームにアクセス出来ます。オンラインにて参加されるかたへは前日までに参加用リンクをご登録のメールアドレスにお送りします。

